

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

司会／ただ今より、第15回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開会します。

本日は、「奈良県における新型コロナウイルス感染症の最近の感染動向を踏まえた県民のみなさまへのお願いについて」が議題です。

それでは、本部長知事よりご発言いただきます。

知事／（マスクを取りながら）これとっていいんだっけ。

お手元の資料で説明したい。

2 ページ

10月以降増加傾向に転じているので、急遽本部会議を開いた。

本日は、最近の感染動向を分析して、1次感染、2次感染以降の感染類型を詳細に分析をして、ご注意申し上げるスタイルになっている。

4 ページ

従来からの対処方針は、

1. 感染経路の類型の明確化と個別の注意。
2. 感染者の早期発見・隔離。

これは、全てのかたに入院治療・宿泊療養を提供するのが目的です。

3. 重症化予防、死亡抑制

最近の感染状況を説明する。

6 ページ

10月以降からの感染動向、主に1週間ごとの合計を記載している。

ご覧のように、急激に増加している。

7 ページ

その内容を、第1波、第2波、第3波と分けた。

第1波は1月から5月、第2波が7月から10月、第3波は10月以降です。

1次、2次、3次感染の内容を、変化があるので記載している。

第1波の場合は1次感染と2次感染。

1次感染が多い。

第2波は、2次感染が増えてきた。

第3波では、調査中が増えてきた。

調査中の件数は、時間が経つとわかってくるので、グラフのグレー部分が縮まってくる傾向がある。どのように縮まるのか、その傾向の動きを次のページでご説明する。

(このページは動画のみ。資料には入っていません)

第3波の1次感染、2次感染の状況は、真ん中の数字で、364名。

その内、調査中のグレーの153名部分を見てください。

この部分が、大阪滞在歴ありと県内外出のみと、半分ずつに分かれる。

この調査中の部分をもう少しはっきり分けると、半分は1次感染。大阪滞在、大阪関連で、もう半分は県内外出、2次感染じゃないかと推察される。

しかし、推察の状況のため、資料としては書いていない。

左のグラフのグレーとブラックの分け方を見ると、約半分半分になると推察ができるわけです。

2次が増えてきてはいるが、1次と2次が約半分半分という推察ができる。

8 ページ

1次の元はどこかを、観察している。

大阪関連ということはわかっている。

約7割になる。

大阪以外の滞在歴の方や、大阪以外から来訪の感染が4分の1ほどある。

約4分の1は大阪に行かれた方。

大阪に行かれた方のケースを分析すると、通勤・通学目的のみでの感染者は、17名だけ。

第2コラムと第3コラムは、通勤・通学し、飲食等の余暇活動をして帰ってきた方がいる。

余暇活動で感染する可能性もあるということだ。

その下の第3番めのコラムは、余暇活動目的のみで大阪に滞在して感染した。

するとこの第2コラムと第3コラムの、余暇活動で感染したらしい方を合わせると、3分の2になる。

大阪関連でも、余暇活動をしなければリスクが大変減ると推察される。

図示を十分していないが、数字からは、そのように読み取れる。

これは、1次感染です。

9 ページ

2次感染の状況を分析する。

第1波、第2波、第3波に分けた分析です。

2次感染以下の奈良県の特徴を、赤い四角の枠に記載している。

社会福祉施設や病院等の感染者は、大きな関心事項。

クラスター化する可能性が高く、影響が大きいので、大変神経を使う分野です。

ここに書いてあるように、比較的強く抑えられているように見える。

これはありがたいことです。

その大宗(たいそう)を占める内容は、家庭および友人との会食。

第2波は部活動のクラスターが発生し、それが占める部分が多い。

第3波は、そのようなクラスターは発生していないので、

家庭・友人との飲食が2次以降の感染の大宗を占めると分析している。

この、家庭・友人との飲食等の感染の防止に効果的な手段が発見できれば、奈良県内での感染リスクが、相当下がることになる。

10 ページ

また不十分だが、1次感染と2次感染の別を年代別に整理した。

年代別からわかるのは、1次感染のほうが高齢者が少ないということ。

50代までの感染者が8割。

50代以下の県内での2次感染は、3分の2で60%台です。

(1次感染と2次感染では)少し違いがある。

1次感染は、大阪市、大阪に行って勤務プラス余暇活動で感染された人が多い。

年寄りのかたはあまり余暇活動されない、行かれても余暇活動されないのではないかと推察される。

20代から50代の方が余暇活動されるように思える。

その20代から50代の内容を見ると、右と左のグラフでおもしろいことがある。

20代・30代・40代・50代に分けてみると、左のグラフ(1次感染)の20代と40代の方が大阪に行って感染される割合が高い。

右のグラフの20代と40代はそれほど大きくない。

このことから、大阪に行って元気に遊興活動されるのは20代と40代の方かなと、推察されるわけです。

左のグラフは50代は少なく、右では多いのも不思議。

これも推察だが、大阪に行って遊興活動される方は、50代になるとあまり元気がなくなり真面目に帰ってこられるのかなと思われる。

県内では、50代のお付き合いの範囲が広くなり多いのかと思います。

これは推察なので(真実かどうかは)わからないが、推察から真実を追求しようという姿勢です。

推察は推察と申し上げて、その推察で止めておきたいと思う。

また、30代は左右のグラフとも少ない。

これはどういうことか。

30代は仕事が忙しくて、余暇活動される余裕がないのかなとも推察できる。

年代別でこのような特徴がある。

しかし推察なので、その実態はわからない。

感染した人の追跡調査をしているが、実態はわからないままです。

だが、このような推察は可能かと思う。

11 ページ

今までの2次感染を、市郡別に分けた。

分けるとサンプルが大変少なくなってしまうが。

特徴がここに書いてある。

生駒市、香芝市、生駒郡、北葛城郡などは、家庭内感染しかおこらないように見える。

商業施設の多い橿原市でも、家庭内感染がほとんどだ。

ベッドタウンなので、大阪に勤めて帰ってきたお父さんが、家族に言わないで余暇活動されていて、家庭に感染をさせることが推定される。

ベッドタウンの中では、そのような傾向がある。

ご家庭以外のケースが混ざっている市町などがその下に書いてある。

その中でも特徴がある。

田原本と郡山。

赤枠の下、1番目と3番目です。

飲食による感染がなく、勤務先などでの感染です。

田原本、郡山は飲食の場がないのか遊興活動をされないのかわからないが、そのような特徴がある。

高田は飲食（による感染）者が多いので、そのような傾向がある。

これは推察が可能だ。

しかし、あまり根拠のない推察にもなるので申し上げることはない。

資料は、飲食の場合（黄色）と緑のその他施設感染の場合とを分けたものです。

桜井は、飲食の感染の割合が比較的多かった。

カラオケのできる飲食店での感染が、5名発生。

1店舗だけだが5名発生したので、割合を大きくした。

十分な分析ではないが、このような分析を続けている。

これまでにわかったことを、分析でご紹介した。

13 ページ

そのような分析を踏まえ、今の時点での特に注意したいことを挙げている。

先ほどの1次感染では、大阪に行き、余暇活動された人の感染率が高かった。

飲食・買い物など余暇活動のみのため、あるいは余暇活動をされるために大阪に行くのは控えていただきたい。

今まで、大阪への往来を自粛してと言ったことはない。

気をつけて行ってください、気をつけて帰ってくださいと言ってきた。

それは、勤務者の3割近くが大阪へ通勤している奈良県だからです。

稼ぎに行っておられる方に、往来自粛と言うのはおこがましい言い方だと思ったから。

だから、大阪へ行くのを控えてくださいとは言わなかった。

しかし、先ほどの調査では、大阪で勤務のみで帰ってこられる人の感染は少なく、

余暇活動をされるかたに（感染が）多い。

余暇活動の中身は飲食と買い物。

そのような活動のため（に行く）、あるいは勤務のついでにされることは控えてくださいという意味です。

次。

1次感染で帰ってこられた方から、ご家庭で2次感染することが多い。

リスクを下げるための注意事項として、帰宅後すぐに着替・シャワーをしていただいたらと思う。

また食事・寝室で、ご家庭は密になる。

換気が少ない、暖かい部屋で食事をしたり寝室を共にされると、うつる可能性が高い。

だから、気をつけていただきたい。

三つめのご注意。

家族との感染の次に、飲食・会食での感染が多かった。

（飲食する）場所が悪いというよりも、感染された方が中におられるとうつる。

これは当然のことだ。

むしろ、感染リスクがあると思われた人は、参加を我慢していただきたい。

自分ではなかなか自覚できないが、なるべく控えめに行動していただきたい。

また、奈良県では、オーナーが客にうつしたケースが、奈良市と桜井市であった。店の方が感染する場合があります。そのようなことを避けるには、出勤を控えるとか、自分が出ない。いずれにしても参加を控えるということを要望します。

四つ目は注意事項ではなく、確認事項です。

これまで本県では、観光客からの感染事例は発生していない。

ありがたいことだと思っている。

観光客の皆さまには、うつらないうつさない行動の徹底を、引き続きお願いしたい。

観光や日常生活を楽しんでいただくことを、むしろおすすめしたい。

その次はご相談事項と病床の関係のご報告です。

16 ページ

症状があるかた、症状がなくても心配なかたは、PCR 検査を受けていただくことになっている。

まず、身近な医療機関に、電話でご相談を。

「新型コロナ・発熱患者受診相談窓口」もある。

0742-27-1132 にお電話いただくと、すぐに検査が受けられるようになっている。

感染リスクのある方は、ご心配な方でもある。

客観的なガイドラインを作っている。

●2 週間以内に感染判明者と接触した

●感染リスクのある場所に滞在された

このふたつは、明白なガイドラインです。

また、

●勤務先などに有症状者がおられる

これもはっきりしている。

次の、

●医療従事者・福祉施設従事者など

感染されたかどうかわからなくても、感染された場合の被害が大きくなる。

そこで、積極的に感染（相談？）を受け入れることにしている。

感染リスクのある人の四つのポイントをご報告しておきたい。

17 ページ

感染された方の受け入れ体制には、重症化対応、入院対応、宿泊療養対応の三つある。

（資料の）真ん中の重症対応は、27 床用意して（利用は）4 名。

入院対応が、今、170 名に増えている。

（利用は）その程度ということです。

軽症者の宿泊療養は少なかったが、今は 32 名に増えてきた。

空室状況、余裕状況は、大きな行政上の関心事項なので、引き続き、ウォッチ（watch）していきたい。

19 ページ

追加の対策の報告がある。

家族に、PCR 検査を待っている自宅待機者がいると、

(その人の) 居場所がない、家の中で窮屈だとおっしゃる方がおられる。

自宅で個室隔離できないと、その間に感染させるかもしれない。

そこで、別の場所での滞在を希望する家族のための宿泊施設を募集していた。

今まで応募がなかなかなかったが、やっと出てきた。

12 月上旬に、38 室のホテルを確保できる見込みになったので、ご報告する。

20 ページ

ふたつめの報告。

社会福祉施設などでの予防のため、実地指導を行うことにしている。

1 法人 1 施設で、約 100 施設ほどの実地指導を行う。

感染症専門の医師、看護師などの指導で、点検評価とゾーニング指導、改善指導などを実地で行う。

11 月、12 月に行いたい。

21 ページ

最後の報告。

医療機関や福祉施設における一斉・定期的な検査を、職員・利用者を実施する。

これは、唾液採取で行う PCR 検査です。

(この方法だと、検査の) 数が稼げるので、1 日当たり約 700 件。

職員と利用者を合わせて、最大 10 万件の実施を予定している。

対象施設の職員の数を(資料に) 上げている。

12 月中旬から開始したい。

以上が報告、注意事項のお伝えです。

今後も分析し、気をつけていきたいと思う。

最初に申し上げたが、第 3 波と言っているような波が、急激に増嵩(ぞうこう)している。

各地でも同様だが、奈良県のやり方である、類型を判断して感染事例を分析し、

その感染の流れをどこかで止めようという、物理的なやり方しか、今はない。

統計を取り、類型を県民に詳細に伝え注意喚起する方法を、今後も続けたい。

また、感染者の病床受け入れ体制は十分に確保していきたい。

以上です。

司会/それではこのほかこの場で、情報共有する事項や確認事項等があれば、ご発言をお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、本日議題とした「奈良県における新型コロナウイルス感染症の最近の感染動向を踏まえた県民の皆様へのお願いについて」を今後方針として、確認し共有することとします。

以上で第 15 回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を終了します。

司会/引き続き、報道機関の皆様のご質問をお受けします。

本部の皆さんはご退席ください。

それでは只今より、質疑応答を始めます。

本日は11時から議会への同じ説明がありますので、10時45分までに終了したいと考えています。

ご協力よろしく申し上げます。

質疑応答の前に、今お配りした資料、「お茶による新型コロナウイルスの不活性化効果」について知事よりご案内します。

よろしく申し上げます。

知事／コロナ関連ですので、追加でご報告します。

昨日、県立医大の細井学長が来られて、このような報告を受けました。

今日は本部会議の後、記者会見があるということで、合同の報告資料を作成しました。

内容は、お茶に新型コロナウイルスの不活性化効果があるという報告です。

お茶を口に含んでいると不活性化する効果があるという報告を受けました。

内容は次のページ。

ABCという種類のお茶があり、グラフのように種類によってほとんど効果がないものと、激しく効果があるものがある。

どういう実験をして治験を得られたのかを11月27日（金）13時から県立医科大学で記者会見を行うことを県として発表します。

内容は、医大の説明を聞いていただければと思います。

以上です。

司会／ありがとうございます。

ぜひ、記者会見には参加いただくよう、よろしく申し上げます。

それでは、ご質問のある方、挙手をお願いします。

記者／毎日新聞です。

大阪への飲食・買い物などを控えましょうということですが、言い換えると、通勤は仕方ないが、大阪への不要不急の往来を控えてください、自粛してくださいということだと解釈してよろしいでしょうか。

知事／奈良県は不要不急とこれまでまだ言ってなかった。

不要不急というのは、私から見れば多少、曖昧な気がする。

統計からみると、うつるのは大阪市内の余暇活動されてる場所。

でも、それだけではないが。

それと、大阪というのは大阪市としたいと思います。

大阪と言うと広すぎる。大阪市と言ったはず。

訂正します。

大阪市以外での感染はあまりないように思います。

なるべく（都市を）特定をして、ご注意くださいということですよ。

不要不急というのはちょっと広すぎる。

先ほどの統計を見ると、勤務で行っても、帰りに余暇活動してうつされたようにも見える。

不要不急で行くのは自粛しましょうと言うと、不要不急ではないと言われることもある。

ちょっと曖昧かなと思います。

先ほどの統計と一緒に報告させていただきたい。

飲食・買い物などのために大阪市へ行くのを控えれば、リスクは下がるというメッセージです。

だから、(不要不急で、大阪に行くのを控えてほしいというのは) ちょっとは違うような気がします。

司会／ほかに質問は？

記者／産経新聞クワジマです。

大阪関連の追加ですが、知事は以前から大阪関連の感染が多いと指摘されています。

でも、資料の 8 ページを見ると、現在調査中 153 名の中に県内の外出しかされていない方が 70 名。

もしこの方たちが県内で感染したと考えると、1 次感染者が大阪関連のみで大多数を占めるとは言えないと思うのですが。知事は、今の県内での感染の広がりをどのようにお考えですか。

知事／今、言われた県内外出の方は、1 次感染ではなく、2 次感染と思われま。

1 次感染は右のグラフです。

これを見れば、大阪関連が 73%、大阪以外の方が 4 分の 1 です。

4 分の 3 を大半というかは表現の話になりますが、4 分の 3 あるということは確かです。

今のご指摘の 70 名は県内外出ですので、調査中の全部を 1 次と言ってるわけではありません。

これは 2 次になるか 1 次になるか不明なので、調査中と言っている。

約半分は 2 次になるのではないかと推察できます。

そのように分けてグラフを書けば、わかりやすかったかと思えます。

改めて見ますと、第 3 波の場合、1 次感染と 2 次感染が半分半分で、拮抗すると思えます。

調査中の不明なところを含めても、半分半分ぐらいになりそうです。

1 次感染がないなら 2 次感染は、ないと推察できます。

1 次感染は右のグラフになりますので、4 分の 3 は大阪関連だと明確に言えると思えます。

記者／追加で伺いたい。

1 次感染の円グラフを見ると、すべて県外に原因がある。

県外由来の感染者のデータだと思います。

基本的にこの 1 次感染者の定義として、県内からの感染は想定されていないのか。

根本的に含めていないということよろしいでしょうか。

知事／事実として、ないということではないか。

県内から 1 次が発生するというのは、定義的にもないのではないか。

2 次感染として、一時、県外に行ってうつされた方や県内から持ち込まれた方を 1 次感染と言っている。

県内で 1 次感染が発生する原発的なものは、定義的にないのではないかと考えます。

記者／わかりました。ありがとうございます。

司会／他にご質問は？

記者／NHK のオイカワです。

医療体制について伺いたい。

病床の占有率は、ちょっと前よりは上がっていると思いますが、現状の県内の医療体制の逼迫度合いについて、知事のご認識は？

あと、県の医療体制について、STEP1、2、3という段階があったと思います。
現状の認識としては、どの段階にあるとお考えでしょうか。

知事／医療体制の逼迫度は、最大関心事です。

逼迫すると、感染が一挙に増加したときに溢れる。

それが一番怖いです。

洪水と同じです。

今までのところ、感染者は全て入院または、軽症者なら療養のためホテルに隔離できています。

まだ溢れた事例はないが、逼迫しているという危機感は多少持ち始めています。

今後の動向予測は困難なところがあります。

奈良の傾向を見ると、大阪が増えると奈良も増え、パラレルになっている。

大阪が下がらないと、奈良も増え続けるのか。

大阪が増えても、奈良が増えないよう、必死に2次感染を防止しようというのが、

今日の報告の最大の願いであります。

そうすると、病床の逼迫度も緩和されるのではないかと考えています。

併せて、感染者の拡大予防とともに、病床の受け入れ体制の逼迫緩和はしたいと思います。

逼迫度の認識は、ランクでどの程度か、まだわかりません。

もう少し分析できたら報告します。

入院されて、何日かで退院される。

入院される方の中には軽症の方もおられます。

奈良県では軽症の方でも入院される方が多いです。

軽症の方は療養病床ではなく、療養ホテルでも大丈夫だとわかってきていますので、

軽症の方には病床でなくても、ホテルの準備をすればいいのではないかと検討しています。

今、108室のホテルをさらに増やす必要があるかどうかを検討して、それで済めばという気持ちもあります。

病床に余裕を持たせるのは大事だが、通常の医療をむしろ圧迫する可能性があります。

軽症の方は、そのままホテルで療養隔離が可能ですので、それで済めばという気持ちもあります。

今ある108室を拡大する方向での検討はしています。

病床の逼迫度は総じていうと、逼迫傾向にあると思っています。

危険な程度とまではまだ思わない。

ちょっと曖昧で恐縮ですが、動向を注視しながら、逼迫度も注視していく。

空いている余裕をずっと保っていききたい。

これがきゅっと詰まって、水が溢れたら困る。

水が溢れても軽症の方へ流すことができれば、それでも隔離は可能です。

奈良県が、いわゆるパンデミックと言われる、溢れてコントロールできない状況にならないようにと思っています。

司会／他にご質問は？

記者／共同通信のカサイです。

大阪関連ですが、知事が先ほど大阪市への余暇活動について言及されましたが、

そのデータの根拠となる1次感染者の大阪関連の方というのは大阪市？それとも、大阪全般の方ですか。

知事／はっきりしてない。

大阪というと大変広いですよ。

大阪府でいいのか、どこまで入るのか。

もう少し資料的に説明できればいいが、大阪市に勤務されてる方が多いと思います。

堺とか高槻という方もおられるし、通学の方もおられますが。

先ほど、余暇活動でうつされたとあったが、余暇活動が高槻とか吹田だったかどうか。

帰りに大阪市に寄って、うつされたのではないかとの推察もある。

だから、大阪市に買い物や余暇活動に行くのは控えてくださいという言い方をさせていただいた。

漠然とすると、向こうに行くのがそもそも悪いのかと、余計な自粛のメンタリティーが発生する。

そうならないよう危ないところだけ明確に指摘させていただけたらと、あえて大阪市と言わせていただいた。

統計の十分な裏付けはないが、余暇活動をして帰ってうつされてる方が多いので、

余暇活動は大阪市内じゃないかと推察されます。

「俺は大阪市内で余暇活動をしないでうつったぞ」という方もおられるかもしれないが、

総じてのご注意です。大阪市内で余暇活動をしないで帰ってくださいというご注意。

記者／大阪市が Go To トラベルの対象から外すとかを見ていると、大阪市内での感染が、大阪市の大阪府内の自治体より突出しているという印象を受ける。

知事／Go To トラベルが外れるのですか。

知らなかった。

私どもは足元の統計ばかり見ている。

奈良県の方の感染類型には、Go To の有る無しは、あまり関係ない状況と思う。

Go To が外れていてもうつる場合はあるかもしれない。

記者／それにしても大阪市だけが確かに突出して多いという印象は我々も受ける。

そういうところを念頭に、大阪市への余暇活動をちょっと（しないで）と？

知事／いや、8 ページ目の統計ですが、大阪関連が大阪市関連と言えるのかどうか議論している。

大阪で滞在というのは大阪市内に滞在ということなのかどうか、

今議論の焦点で、推察で大阪市と言わせていただいた。

もう少し経てば、これが大阪市滞在なのかどこなのか、焦点を当てる統計になると思う。

統計処理上、そこまではまだ詳細にしてこなかった。

なるべく詳細にして細かく注意する方が、経済活動との両立を図る上では必要なことだと思っています。

大きくやると経済活動は余計なところまでダメージを与えると私は思います。

また Go To を広くするのか狭くするのか分からないが、それとは関係ないと言っておきたい。

記者／あともう一点。

医療機関、福祉施設の一斉定期的検査実施の件。

定期的ということなので、一日当たりおよそ 700 件。

職員と利用者を合わせて最大で 10 万件の検査が実施できるとされている。

毎月やっていくとか、スパンは決まっていますか。

知事／どこ？9 ページ？

記者／21 ページです。

医療機関や福祉施設での新型コロナウイルス発生を防止するための職員、利用者の一斉定期的検査について。

知事／ああ、すみません。

職員／感染と関係している地域で、2 週間に 1 回、定期的に検査をするのを想定しています。それをずっと長く続けるということではありません。ある程度感染が拡大している地域を見て、そこにある施設等に一斉定期的に、およそ 2 週間程度、何回かするというのを想定している。

司会／ほかにありますか？

記者／読売新聞の小林です。

Go To イベントについてお聞きしたい。

Go To トラベルと Go To イート。

奈良県はそのまま継続になるのでしょうか。

知事の判断を求めると菅首相もおっしゃっているが、どうお考えでしょうか。

知事／Go To トラベルもイートも、県内からの観光客も含めて、観光活動でうつったとかうつされた事例がまだ発見されていません。ある面、寂しいことですが、そのような事例です。

Go To トラベル、Go To イートは自粛すべき対象だとは考えていません。

今のところ、両立が図られていると思っています。

Go To トラベル、Go To イートを自粛してくださいと、国へ発信していません。

記者／関連して、県独自の「いまなら」キャンペーンも同じ？

知事／同じです。

「いまなら」も両立の観点から、これで感染拡大に寄与したかどうか、監視のポイントです。まだ感染者が発見されていない。

「いまなら」も、経済との両立に寄与しているので続けたい。

記者／NHK さんの質問の関連。

宿泊療養室、ホテルを拡大することを検討したいとおっしゃってましたが、ホテルをもう一個増やすとか、数を増やすことを考えていらっしゃるのか。

知事／そうですね。

108 室のところを数を増やすことを検討しようかという段階。

病床数は、逼迫してくると考えるべきだが、宿泊療養室を増やすことで対処できれば、

その方が、既存の病床へのダメージがなくなると考えています。
重症者がすごく増えたら、重症病床が27床では足りないのではないか。
これが逼迫の最大の関心事だが、今までのところ、まだ逼迫の危険性までいっていません。

軽症が多いのが奈良県の状況なので、軽症対応の宿泊療養室を増やすことで対処する方向です。
これもすぐに公募しないといけないので、また対処を報告したいと思います。

記者／今現在は、無症状の方がホテルで療養されてると思いますが、軽症の方もホテルでという方向にしようということですか、

知事／そうですね、軽症の場合、無症状か軽くても症状がある場合かに分かれます。
軽症はホテルでと言っていますが、もう少し拡大するかどうかですね。
軽症の中でも軽軽症なのか、中軽症なのか違いがある。
詳細はわかりませんが、そのように分析して、ホテルで隔離療養をしても大丈夫という医学的な判断をした上で、ホテルに行ってもらおうと思います。
家庭での待機療養よりは、遥かに安全だと思います。
家庭での待機隔離は、なしにしたいと強く思っています。

司会／では〇〇さん。

記者／先ほど知事が言われた観光客からの感染事例がないという点について。
奈良県に来られた方が地元へ帰られた後、数日以内に発症されたとか、奈良県内でも感染経路不明の方が、直近に「いまなら」キャンペーンを利用されていたという事例は一切ないということですか。

知事／失礼しました。
それは把握できませんので、そこまで含めて、ないとは言い切れないと思います。
奈良でうつされたという方が、どこかにいるかもしれない。
奈良の人が「いまなら」でうつしたという事例があれば、奈良の人は把握できるので、観光でうつされた事例は把握できる。
遠くから奈良に来て、うつされて帰った人がいるかもしれないと推察はできます。
でも、奈良の人で奈良でうつったケースはまだ皆無なので、他の人もうつってないだろうと推察した。
奈良でうつされた事例が、他県で統計上、まだ処理されていないのでわからないだけです。
統計上、全くなかったということではなく、推察が入っていると申し上げないといけない。

記者／わかりました。
県内での感染の広がりについて。
知事は今、奈良県内で市中感染は、あまり広がっていないと考えておられるのか、どのような状況だとお考えですか。

知事／感染の広がりというのは、曖昧な観察視点のように思います。
地域的な広がりか、分野的な広がりか、全体的な広がりか。
感染者数が増えていると報道されますが、どのように広がったのか分析をするのが、

我々にできるほとんど唯一の手立てです。

分析をして、その状況報告することになると思います。

地理的な広がりには、11 ページにあります。

上の方、家庭内感染は橿原市で8名、香芝市で4名、生駒市で14名、奈良市で44名。

この表は割合が書いてあります。

広がりには、奈良市は多いと判断されますが、逆に南の方では、全く感染者が発見できない。

広がりを地理的な広がりという意味でくくるのがいいのかわかりません。

先ほどの1次、2次の類型から見ますと、大阪勤務で、大阪で余暇活動されている方の第1次感染が、より明確になってきました。

大阪通勤プラス余暇活動されている方は、奈良県の場合は、北西部に集中しています。

広がりというのは、北西部での広がりになると思います。

大阪に全く行っていない人数を和歌山と比較すればわかりますが、大阪への交流度は、和歌山と奈良ではだいぶ違うと思います。

日々、10万人も大阪に行っている県とそれほどでもない県とでは、感染リスクはずいぶん違うと思います。

そのような社会活動の構造になっているので、気をつけるパターンを絞って言うのが大事かと思います。

推察が間に入るので、申し訳ありませんが。

記者／ということは、第一波のときのように、県内での外出とか、特に気をつけるべき高齢者の方への外出自粛等の呼びかけまでは、まだされないということですか。

知事／そうですね。

事例がわかってくると、分析は人類の最大の武器なので、姿が見えない敵でも、

広がりパターンは、統計上、わかってきます。

できるだけ統計を使って把握して、注意をするのが一番の武器になります。

最初はわからなかったもので、広く注意しましょうということでした。

広く注意すると、経済社会活動へのダメージが大きかった。

一斉休校とか、後でいろいろ言われる。

なるべくフォーカスをして、ここは気をつけましょう、こういう場合は気をつけましょうと言ったほうがいい。

統計上判断できたところは、(的を)絞ってご注意すれば、リスクはそこそこ軽減されるのではないかと。

司会／ほかに質問は？

その他の質問を含めまして、よろしくお願ひします。

毎日新聞さん。

記者／一点だけ。

この間あった市町村長とのサミットで、東京理科大学の理事長とお会いして、県立大の理工系学部について話をするとおっしゃっていましたが、どんな話をされたのでしょうか。

可能な限り教えていただけますか。

知事／理科大学の学長ではなく、理事長と会いました。

事前のすり合わせが十分でなかったのか、あまりうまくいきませんでした。

まだ議会に報告していませんのに、ほかで報告するのはいかがでしょうかと思いますが、今回の訪問では成果はあまりありませんでした。

しかし、一般的な関心は持っていただいているようです。

情報の提供のすれ違いがあったと私自身は感じましたが、工学系の学部には協力いただく。学而（がくじ）協力の可能性はあると思っています。

理事長でしたが、私は学長と勘違いしていて大変申し訳ない。

学長だといろいろお願いすることがあったのですが。

そういう経緯もあって、情報のすれ違いがありました。

こんなところで報告するのは申し訳ないですけども。先週はそのような事情でした。

司会／ほかにご質問は？

よろしいでしょうか。

それでは、これで質疑応答を終わらせていただきます。

ありがとうございました